東京２０２０大会組織委員会　アクション＆レガシープラン 中間報告について①

参考４

TOKYO●2020

１．基本的な考え方（アクション＆レガシープラン）

▽ 『オリンピック・パラリンピックは参加することに意義がある』とあるように、
できるだけ多くの方々、自治体や団体に参画していただく【アクション】。

▽ 大会ビジョンで「スポーツには世界と未来を変える力がある」を掲げ、
その力で、東京２０２０大会をきっかけにポジティブな影響を残し、
聖火リレーのように、**次代を担う若者や子供たちに継承していく【レガシー】。**

▽ **『アクション＆レガシープラン』**は、一人でも多くの方が**参画【アクション】**し、
大会をきっかけにした成果を未来に**継承する【レガシー】**ためのプラン。

Tokyo 2020 Vision

スポーツには、世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は

「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」

「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」

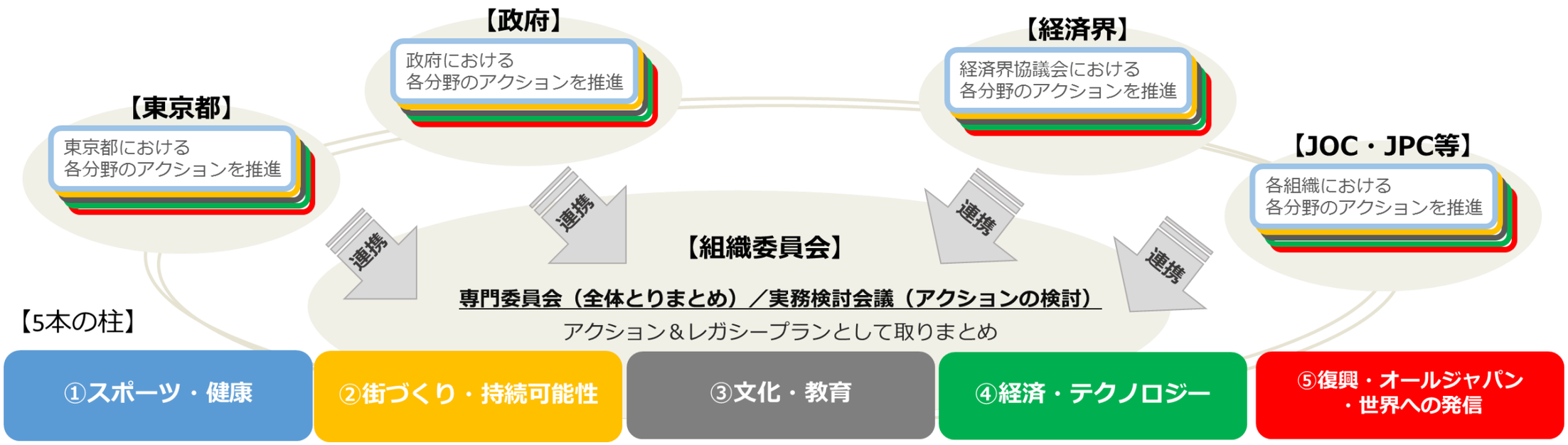
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を

３つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

２．オールジャパンでの取組

▽ 東京都、政府、経済界、JOC・JPC等の関係団体と連携を図り、オールジャパン体制で検討し、今回、中間報告として取りまとめ。
（別紙参照）

▽ ①「スポーツ・健康」②「街づくり・持続可能性」③「文化・教育」④「経済・テクノロジー」⑤「復興・オールジャパン・世界への発信」の５本の柱で検討。⇒今後、「アクション＆レガシープラン２０１６」を策定し、リオ大会前に公表予定。



東京２０２０大会組織委員会　アクション＆レガシープラン 中間報告について②

TOKYO●2020

３．アクション＆レガシープラン２０１６の策定に向けた重要な視点

（１）**『参画』**

- 東京2020大会に向けて、大会に関連する多くの企画・イベントを全国で実施し、できるだけ多くの方々、自治体や団体に主体的に参画していただくことにより、全国的に盛り上げ、大会の成功を通じたレガシー創出を目指す。

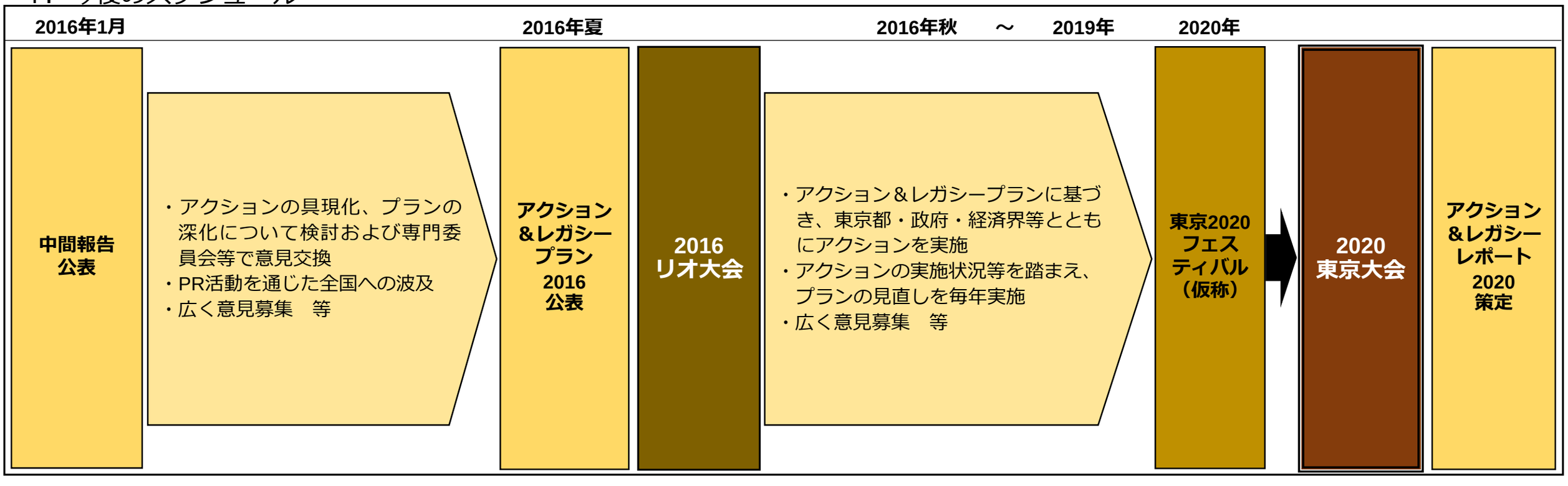
（２）**『パラリンピック』**

- 高齢化先進国に向けた課題解決や、共生社会の実現・確立に向けたきっかけとなりうる大会。
- 東京は世界で初めて、同一都市で２回目のパラリンピック大会が開催される都市。

（３）**『2018～2022年の間の大規模大会との連携』**

- アジア地域で開催されるオリンピック・パラリンピック大会（2018年 平昌（韓国)・2020年 東京（日本）・2022年 北京（中国））、日本でのラグビーワールドカップ大会（2019年）、ワールドマスターズゲームズ（2021年）といった世界的な大規模スポーツ大会との連携を図る。

４．今後のスケジュール



①スポーツ・健康

＜アスリート委員会、高橋尚子委員長＞

TOKYO●2020

基本的な考え方

■オリンピック・パラリンピックは様々な分野への波及力を持ち、「スポーツ・健康」は５つの柱各分野との結びつきが最も高い

■東京2020大会は、日本と世界にポジティブなレガシーを創出する大きな転換点となることを期待

残すべきレガシー

誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会	アスリートが活躍する社会	パラリンピックを契機とした共生社会
スポーツ参画人口の拡大とスポーツ関連産業の発展	競技力の向上と競技環境の整備	障がい者スポーツのファン拡大
スポーツ（運動）の力による健康づくりの推進	ロールモデルアスリートの育成と活躍の推進	障がい者スポーツの環境整備
スポーツを通じた国際交流・協力	スポーツ・インテグリティの保護	共生社会に向けたアプローチ

「共通の幟（のぼり）※」によるオールジャパンでのアクションの推進

（※東京2020大会とコンセプトを共有する、関連性のある様々な取組をつなぐ共通のキャッチコピー等）

誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現に向けたアクション例

■「一地域一スポーツ運動（仮称）」等によるスポーツ実施率向上に向けた取組の推進

■スポーツウェルネスに関する情報を効果的に届けてスポーツ実施を促す「インフルエンサー」を全国で組織化

■アスリートや市民が参画する大会エンゲージメントと地域のスポーツ振興等を相乗効果が上がるように実施

■「スポーツ・フォー・トゥモロー」等、スポーツを通じた国際貢献の推進等

■身近な場所でのスポーツ実施を促進するため、様々な資源を最大限活用して「スポーツフィールド」を創出　等

アスリートが活躍する社会の実現に向けたアクション例

■アスリートの競技力向上と健康維持を支える環境整備（女性アスリートの課題へも対応）

■次世代アスリート育成する好循環「アスリートサイクル」を推進

■アスリートの経験を活かした商品開発等の推進

■「若手アスリート参画プロジェクト」などスポーツの力による復興・地域活性化の推進

■アスリートのキャリアやネットワークを活用した地域スポーツの推進　等

パラリンピックを契機とした共生社会の実現に向けたアクション例

■パラリンピック競技や障がい者スポーツの魅力を多角的に発信、体験機会の提供など

■特別支援学校等を、地域の障がい者スポーツの拠点の一つとして活用

■障がい者スポーツ支援に取組む企業と団体のマッチングの仕組みづくり

■心のバリアフリーの理解・定着促進

■障がい者のスポーツ参加を促進するための好事例の発信　等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む

②街づくり・持続可能性

＜街づくり・持続可能性委員会、小宮山宏委員長＞

TOKYO●2020

基本的な考え方

■東京2020大会を訪れる様々な人にとって、使いやすく分かりやすい社会インフラを構築し、世界へ発信

■東京2020大会を契機として、世界の人々と持続可能な社会のビジョンを共有

残すべきレガシー

街づくり

ユニバーサル社会の実現
（誰にとってもアクセシブルな公共空間の実現）

魅力的で創造性を育む都市空間
（快適で魅力的な空間の充実）

都市の賢いマネジメント
（ICT技術などを活用した効率化）

安心・安全な都市の実現
（東京2020大会時の安全確保計画の確立）

持続可能性

持続可能な低炭素都市の実現

持続可能な資源利用の実現

水・緑・生物多様性に配慮した快適な都市環境の実現

人権・労働慣行等に配慮した事業活動の定着

持続可能な社会に向けた参加・協働

様々なアクションに取組む姿を世界へアピール

街づくりにおけるアクション例

■多言語対応の強化

■アクセシビリティ・ガイドラインの策定と活用

■船着場の整備による舟運の活性化と、水辺空間のにぎわいの創出

■新規恒久施設の着実な整備と有効活用

■ICT基盤の充実（公衆無線LAN環境の整備促進等）

■社会全体のICT化

■安全・安心を担う危機管理体制の構築　等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む

持続可能性におけるアクション例

■太陽光発電や地中熱利用ヒートポンプなど、大会施設等で再生可能エネルギー、省エネルギー技術の積極的な導入

■競技会場における再生材の活用

■水素供給システムの整備など選手村を水素社会の実現に向けたモデルに

■都市鉱山の活用検討

■遮熱性舗装等の整備やクールスポットの創出など、大会における暑さ対策の推進

■在来種等の生態系に配慮した植栽を推進する等、様々な主体と連携して緑を量的・質的に充実

■「持続可能性に配慮した調達コード」の策定・運用

■環境に対する意識や取組の向上　等

③文化・教育

＜文化・教育委員会、宮田亮平委員長＞

TOKYO●2020

基本的な考え方

■文化・教育の各種取組を通じて、より多くの人々を東京2020大会に巻き込み、大会成功の機運を醸成

残すべきレガシー

文化

- 日本文化の再認識と継承・発展
- 次世代育成と新たな文化芸術の創造
- 日本文化の世界への発信と国際交流
- 全国でのあらゆる人の参加・交流と地域の活性化

教育

- オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値の理解
- 多様性に関する理解（障がい者への理解・国際理解）
- 主体的・積極的な参画と大学連携（将来の国際社会や地域社会での活動に、主体的、積極的に参加できる人材の育成）

文化の祭典としてあらゆる人々が参加する東京2020大会文化プログラム（仮称）を展開

多様な教育メニュー全体をパッケージ化した教育プログラム（愛称：よういい、ドン！）を展開

文化におけるアクション例

- ■小・中学校における伝統文化・伝統芸能鑑賞体験授業の充実
- ■学生、若手クリエーターを対象として公募による新たな発想を取り入れたプログラムの展開
- ■伝統芸能と最先端技術やポップカルチャーを融合させた新たな芸術表現の創造
- ■国内外のアーティストを受け入れるアーティスト・イン・レジデンス事業
- ■アール・ブリュットの普及推進
- ■文化芸術の力を活用して「街づくり」や「福祉」「教育」等の課題解決型事業の展開　等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む

教育におけるアクション例

- ■オリンピック・パラリンピック教育を積極的に進めていく学校の指定
- ■オリンピアン・パラリンピアン・外国人アスリート等の学校への派遣
- ■企業や団体等の提供する教育メニューの教育活動への活用
- ■障がい者スポーツの観戦・体験等の機会の拡充や、特別支援学校の児童・生徒と小・中・高校生との交流を充実
- ■１校１国運動のような学校単位での国際交流
- ■大会運営ボランティアや大会に関連する活動への参画
- ■大学連携の枠組みを通じた取組の推進　等

④経済・テクノロジー

＜経済・テクノロジー委員会、大田弘子委員長＞

TOKYO●2020

基本的な考え方

■東京2020大会は、日本経済の力強さや最先端テクノロジーを世界にアピールする絶好の機会

残すべきレガシー

経済

高性能経済
（日本の高い技術力や高品質な製品を世界に発信）

底力の発揮
（日本の各地がもつ潜在的な魅力を引き出し、アピール）

高齢化先進国への挑戦
（豊かな高齢化社会実現への取組を世界に示す）

テクノロジー

感動の共有
（大会の臨場感を最先端の技術等を駆使し、世界に伝える）

For All
（全ての人に優しいバリアフリー社会を目指す）

高信頼・高品質の安全
（官民一体となった安全・安心を担う危機管理体制を構築）

水素社会の構築
（世界に日本の誇れる環境対応技術をアピール）

ジャパンブランドをアピールするキャンペーンの展開を検討

経済におけるアクション例

- ■音声認識・多言語対応ロボットによる接遇対応の普及拡大
- ■グローバル社会に対応した生活・滞在環境の整備
- ■大会開催時を見本市とし、先端的商品・サービスに統一ブランドのマークを付けて紹介
- ■柔軟な決済プラットフォームを通じた「スマートな手続」の実現
- ■ローカル・クールジャパン見本市(仮称)を開催
- ■世界規模のビジネスマッチングの「グローバル・ベンチャーサミット（仮称）」を開催
- ■大会を契機に生み出される様々なビジネス情報を全国の中小企業に提供するポータルサイトの構築
- ■ウェアラブル機器やAI等を活用した先進医療サービスの実施　等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む

テクノロジーにおけるアクション例

- ■4K8Kなどの最先端の映像伝達技術の活用
- ■多言語翻訳などの言葉の壁をなくす技術の開発・推進
- ■ICTを活用したスポーツ情報データ（ODF等）の充実・提供
- ■街なかのバリアフリーマップによる分かりやすい案内情報の提供
- ■歩行者支援ロボットや見守りロボット、アシストスーツ等を活用した障がい者・高齢者の生活支援の実証
- ■セキュリティカメラ／緊急時用のサイネージの整備
- ■大会と連携した、燃料電池自動車や定置用燃料電池、水素ステーションの普及　等

⑤復興・オールジャパン・世界への発信

＜メディア委員会、日枝久委員長＞

TOKYO●2020

基本的な考え方

■東京2020大会を日本中のできるだけ多くの人の参画により盛り上げ、また、世界中から注目が集まる機会として、東北の復興した姿や日本の文化・伝統、経済・テクノロジーなどを世界へ発信

残すべきレガシー

復興

・被災地でのスポーツ実施率の向上や子供たちの体力向上を目指すとともに、将来的なオリンピアン・パラリンピアンの輩出を企図
・復興の姿を継続的に世界へ発信し、大震災の記憶の風化防止を図るとともに、風評被害を払拭

オールジャパン

・多くの人々が、大会関連イベントやボランティアなどに自ら参画し、大会の感動と記憶を後世に伝承
・大会のポジティブな影響を日本の隅々まで波及させ、地域の一体感の醸成、地域経済、コミュニティの活性化を企図

観光

・2020年を節目に、外国人旅行者が快適に滞在できる環境整備を推進し、外国人旅行者の増大をもたらす
・各地の観光産業活性化により、地域による外国人旅行者の受入が促進されることにより交流が生まれ、地域の人々の財産となる

世界への発信

・文化・伝統、経済・テクノロジーなどの魅力を世界へ発信し、世界各国における日本に対する理解者をさらに増やす
・オリンピック・パラリンピック精神の普及を通じ、平和に関し世界に訴求し、世界平和に貢献する

復興・オールジャパン・世界への発信を展開するアクションの検討

復興におけるアクション例

■ジュニアアスリート等の発掘や育成支援

■東京2020大会における「子どもレポーター」の実施

■ライブサイトやフラッグツアーの実施や、復興へ歩む被災地の姿を継続的に映像に記録し、世界へ発信　等

オールジャパンにおけるアクション例

■東京2020大会公式ソングやオリ・パラ音頭（仮称）、ダンス等の創作

■障がいのある人もない人もボランティアに参加しやすい環境づくり

■ホストタウン事業による日本の各地域の活性化　等

観光におけるアクション例

■2019年ラグビーワールドカップ、2021年関西ワールドマスターズゲームズとの連携による訪日リピーター獲得

■「＆ＴＯＫＹＯ」を活用した東京をＰＲする様々なプロモーション

■広域観光周遊ルートの形成を促進し、海外へ積極的に発信　等

世界へ発信におけるアクション例

■リオ大会「東京2020ジャパンハウス」での日本の魅力などの発信

■2018年平昌、2022年北京と2020年東京との組織委員会等の連携

■オリンピック休戦プログラムの実施　等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む